

令和2年秦野市議会第4回定例会

市民の代表として議会に臨む

秦野市は全国から選ばれる「本物の魅力あるまち」であると確信し、私たち市議会会派「創和会」は、その本物の魅力を確認し、高橋市長が掲げる「5つの重点事業」の実現に向けても、問題提起だけでなく、その課題解決に向けた提案を行い、市民生活の向上と秦野市の発展の一助となるよう、努めてまいりました。その一方コロナ禍による厳しい財政状況を考慮し、今年度は重要性は認識しつつも視察を控え、その分の政務活動費は財源に充てるよう昨年度と同様、今年度も返還いたします。また昨年12月定例会においても行政のチェック機能を果たすため各常任委員会や一般質問などで活動してまいりました。今後とも、市長や市の執行部とともに一丸となり、わがまち「ふるさと秦野」が夢と希望溢れるまちとなるよう、議会活動を通じて邁進してまいります。

監査委員の立場から秦野市の行政運営をチェック

諸星光

私は現在監査委員を務め、査委員の定員は3人で、私は秦野市議会を代表して



諸星光
■総務常任委員会
■監査委員

監査委員は地方公共団体の財務に関する事務の執行や、経営に係る事業の管理と市の事務の執行を監査するために設置されている機関です。地方公共団体が行う行政サービスが法律に則り、効率よく合理的にされているのか、さらに何らかの不正などがなければならぬに關して幅広い観点から監視する役割です。

監査の結果は議会や市長に提出されるとともに、公表することが義務付けられています。秦野市民に行政に対する判断の材料を提供することも、市民の秦野市行政に対する信頼を深めてもらう役割も併せて担っています。監査委員は一人ひとりが単独で監査を行うことを原則としているので、複数が構成されていますが「委員会」という呼び方をしないのが特徴のひとつです。

議会の申し合わせにより、監査委員は一般質問を行いませんが、市議会では総務常任委員会委員を務め、本会議で付託された議案や陳情などについて、審査しています。

市の執行部と車の面輪を担う市議会として、市議会の場で責任をもって市民の声を届けることも、行政のチェック機能として、市政に対して目を光らせていきます。

商店街の路上を活用し、にぎわいの創出に努めよ

谷和雄

1・今後の商店街の活性化について
問/コロナ禍の影響に対応するため、沿道飲食店などの路上利用の占用許可はありますか。

可基準が緩和されたが、制度の取り組みの状況はどうか。
答/本市でも活用できるから要望があり、実施に向け調整していく。意見/商店街には飲食店だけでなく小売業もあり、基準の緩和対象だと考える。路上を活用したテラス営業など、コロナ禍だからこそ知恵を絞って、商店街のにぎわいの創出に努めて欲しい。

2・移住につながる住宅施策について
問/移住者の受け皿として空き家の活用が考えられる。空き家の所有者に対し意向調査を実施することが空き家解消の近道と考えるがどうか。
答/まずはエリアを絞り、上地区から意向調査の準備を進めている。要望/移住の受け皿対応は急務である。移住促進担当課の創設も視野に取り組みよう要望する。

3・小規模特設校である上小学校について
問/上小学校で、タブレットを活用したプログラミング教育について研究発表が行われたが、成果をどう捉えているか。
答/ICTを活用した学習の有効性や期待感の高まりを感じた。意見/上小学校で培ったノウハウを今後を生かして欲しい。



谷和雄(会派代表)
■文教福祉常任委員会委員長
■議会運営委員会
■秦野市伊勢原市環境衛生組合議会

2020年の振り込み詐欺の被害は10月末時点で18件、被害総額は2700万円に上る。秦野市の対策はどうか。
答/①様々な悩みが相談できる窓口の周知を強化する。②関係機関との連携により未然防止を図る。③警察との出前講座の開催や地域への巡回など注意喚起に努める。

2・一般社団法人カナガワエルネスロードとの連携について
問/東海大学の知力と教育陣、2万人の学生の力を生かした産学官連携に

地域力向上に向け、市内企業の育成支援を

福森真司

1・救急ワークステーションの運用について
問/令和2年10月12日から運用が開始されたが、効果はどうか。

答/一刻を争う緊急度・重症度の高い傷病者に対し、医師による迅速な初期治療と病態判断が可能となった。

要望/課題を検証・改善し、市民の安心・安全を支える地域医療体制の充実を図って欲しい。

2・下水道処理施設の機械・電気設備維持管理について
問/処理場設備の修繕や更新工事などの発注状況はどうか。
答/令和元年度の実績は、発注件数19件のうち、設備製作メーカーなどの企業に発注したものは11件である。

要望/市内には様々な分野で高い技術力を持つ優れた企業がある。緊急



福森真司(会派幹事長)
■総務常任委員会副委員長
■議会運営委員会

時・災害時にも迅速に対応できるため、市内業者とも積極的に連携し、維持管理に努めて欲しい。

3・水道管の耐震化と今後の経営について
問/幹線道路の耐震化計画の進め方はどうか。
答/施工を市内業者と案件付け、令和3年度からの3年間、管路DB方式(設計・施工一括発注方式)で整備を進める。要望/大災害に備え耐震化を進めるとともに発注を平準化し、水道事業を支える市内企業の育成にも取り組んで欲しい。

カナガワエルネスロードとの連携を

阿蘇佳一

1・子供や若者、高齢者の命を守る施策について
問/①本市のひとり親家庭からの相談件数は2020年3月から10月まで2794件だが、相談

体制はどうか。②全国で覚せい剤は8584人、大麻では4321人、本市では薬物事犯で18人が検挙されているが、秦野市の対策はどうか。
答/①様々な悩みが相談できる窓口の周知を強化する。②関係機関との連携により未然防止を図る。③警察との出前講座の開催や地域への巡回など注意喚起に努める。

2・一般社団法人カナガワエルネスロードとの連携について
問/東海大学の知力と教育陣、2万人の学生の力を生かした産学官連携に



阿蘇佳一
■環境都市常任委員会
■秦野市伊勢原市環境衛生組合議会

丸跡跡の出土品・民具などを展示する郷土資料館の建設に向け、東田原中丸跡跡整備活用構想に沿った計画として具体的に進めるべきかがどう考

歴史的資源を活用し、整備して地域活性化を

横溝泰世

1・郷土資料館の建設と地域活性化に向けて
問/桜土手古墳展示館が、はだの歴史博物館にリニューアルし、昨年と

比較し来館者が増加した。東地区の地域活性化につながる実朝公御首塚周辺整備と合わせ、波多野城址の復元と東田原中田原ふるさと公園内のふるさと伝承館の老朽化対策で周辺整備を含め地域と意見交換しながら、郷土資料の展示・紹介について検討するよう関係部署と協議し、積極的に進めていきたい。

要望/わがまち秦野について後世に伝えていくことは、私たちの責務である。市民は歴史や文化を学ぶことで郷土愛が育まれ愛着とともに秦野に住んでいることに誇りを持つことができる。特に東地区は自然豊かで、文化財や歴史的資源の宝庫といえる。文化財や歴史的資源は新たな人を呼び、地域の活性化にもつながる。そうした貴重な地域の財産を活用するため、中丸広場周辺の整備計画を積極的に図っていただきたい。



横溝泰世
■文教福祉常任委員会
■議会運営委員会

利用が進むWi-Fiと、テニスコート8015面分の未活用農地について

原聡

1・公共施設の無料Wi-Fiについて
問/災害発生時接続方法や利用条件はどうか。
答/市の依頼または回線事業者の判断でメールアドレス・パスワード認証なしで接続可能だが、負荷を避けるため1回30分が上限となる。

問/需要が増えるウェブ会議や防災対応の観点から拡充の予定はあるか。
答/市民ニーズを捉え対応する。GIGAスクール構想の一環として中学校のWi-Fi整備を進めているが、災害時第一次避難所となるため、避難所開設時の利活用を関係部署と検討する。

要望/利便性向上のため、全施設で接続方法の統一を図り、接続時間の

制限も無くして欲しい。
2・「農」の担い手育成支援について
問/後継者のいない農家割合と今後10年で貸し出し希望する農地は。
答/後継者がいない割合は45%、貸し出し希望は209ヘクタール。
問/農の担い手不足には経営基盤強化が必要である。若い農業者に施設栽培への転換を促し、経営の安定化を図る考えは。
答/高収益化モデルの構築により、若い世代に選ばれる職種になることを目指すが、今後関係機関と連携し研究していく。

要望/積極的に親元就農を支援するとともに、研修時から就農後まで切れ目のない支援を求める。



原聡
■環境都市常任委員会副委員長

創和会は市民のために 会派一丸となって 議会活動に取り組んでまいります。

■ 谷和雄(会派代表) ☎0463・88・1008	■ 阿蘇佳一 ☎0463・78・6477
■ 福森真司(会派幹事長) ☎0463・81・0835	■ 横溝泰世 ☎0463・82・4570
■ 諸星光 ☎0463・88・4337	■ 原聡 ☎0463・81・8584